

# ぼちぼち一生懸命

## 第1部 道徳教育指導者養成研修を終えて ～道徳の授業はみんなで作る～

美和小学校仙石先生が、道徳が教科化になった経緯や、中心発問の設定の仕方など、研修で学んで来られたことを分かりやすく丁寧に講習してくださいました。



とても分かりやすかったです。量的確保、質的転換の具体的な手だてが分かって、できそうなものからしてみようと思いました。

「ネームカードで発言者を視覚化して写真で記録する」これは目からウロコでした。明日からでも導入できそうです。

「教師が意図を持つことで深い学びにつながる」という言葉が印象に残りました。

教科としての道徳と考えると不安になることも多いですが、「これまで通りと変わりませんね!」という仙石先生の言葉を聞き、少し安心しました。ありがとうございます。

「教科化の背景を分かりやすく説明していただき、考え方が整理されました。

授業をする時、ちょっとしたことでも話題にして、周りの人と共有してみましょう。みんなで「考える」ことが大切です。子どもも教員も「考えてよかった」と思える授業をめざしたいですね! (仙石)

## 第2部 道徳科の師範授業

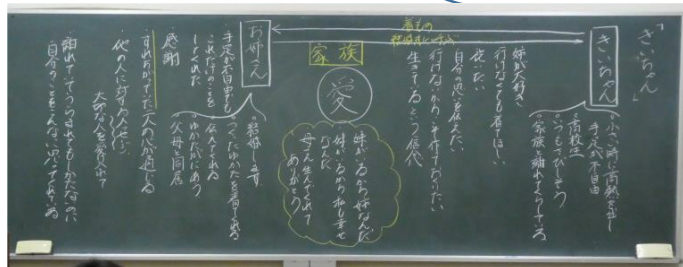
～一年間を通して道徳のテーマは“愛”～

参加した先生方に児童生徒役となっただき、切り返しの発問や板書のタイミング、考えをシェアするタイミングなどについて一緒に学びました。



木村先生が発言している方に対して「へえ～」「なるほど!」と相づちを打っているところが、発表者が話しやすくていいな、私もやってみようと思いました。

生徒の立場で受けてみて、範読の仕方や板書ってとても大切だと改めて思いました。「愛」のテーマのもと、全ての道徳をするのもおもしろいなと思いました。



かなり授業の中で考えることができるなと思いました。自分自身も、最初の考えと他の先生方の考えを聞いた後では、思いが変わっていったことを実感しました。

道徳の授業は、他教科と違って、教師が子どもに“教える“ものではありません。そもそも、道徳性(道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度)を教えることは難しいものです。「よりよく生きるために考えること」が道徳の授業の大切な点になります。そのために、私たち教師は、道徳の時間に育成する道徳性の手がかりとなる道徳的価値について、観念的ではなく理解しておくことが求められます。そうすると、中心発問も問い返しも明確になります。(木村)



第6回は30名の参加がありました。第7回はいよいよ元教科調査官の横山利弘先生がお越しくださいます。